

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	912T	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.046	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：912T

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

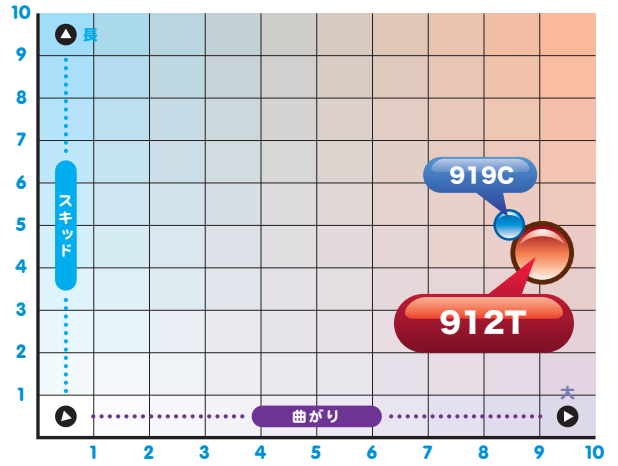
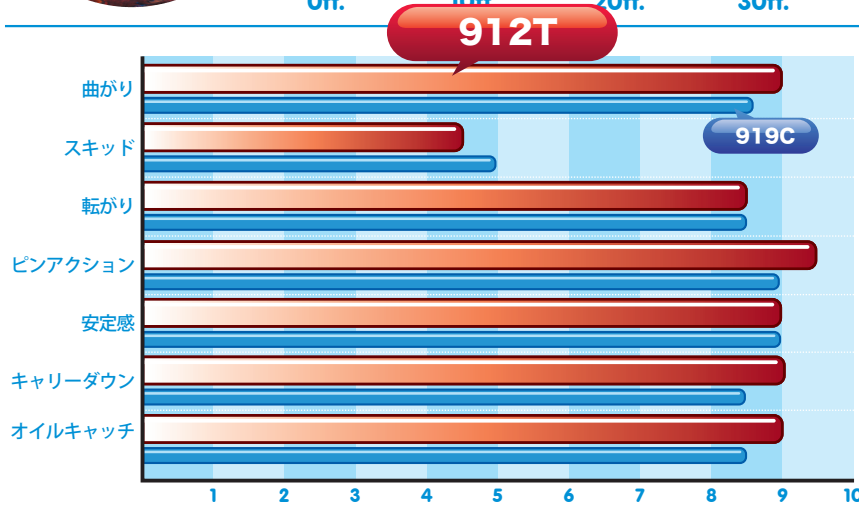
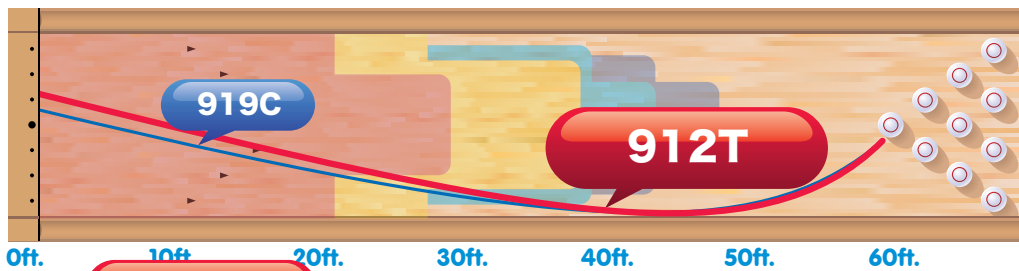
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：919C

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ボールの評価

オイリーなコンディションでのブレーキがかかる安心感とそれでいて曲がり続けられるトラクション。現在オイリー用で使用されているカバーストックは「曲り終わる」というイメージとは全く無縁の性質だと断言できます。920T及び930Tの当時よりもケミカルチューンナップされたカバーストックは進化を辿り、ブレーキのかかり具合とバックエンドでの動きは比較できないほど「曲がる」と感じていただけるでしょう。

投球して感じたのは、「T」(Traction)性能が存分に味わえるミッドエリアでの安定感を感じるのに、ピンヒットまでパワーが衰えることなく曲がり続けるボールであるということ。カバーストックの進化とともにキャッチ強さとバックエンドまで曲り続けさせるためにInt Diffを表す”下2ケタ”を”12”としたのも、コアとカバーのバランスを考えての設定であると言えるでしょう。

持続的にキャッチしているように感じているのに、しっかりとピンを飛ばせる角度まで動力を失わずに運べるリアクションは好印象で、ピンヒットも低く柔らかいのもかなり高いレベルにあります。

最近の曲がると言われるボールの殆どがバックエンドでリアクションがボケるイメージはなくなりました。同時に必要なのはスピードが極端に速い方や回転数が少なすぎる方を除いては、強すぎるレイアウトは必要としないことを理解しなければなりません。

Pin-PAPは4-1/2から5インチ、PAP-Massは4から5インチの間で十分にパフォーマンスを得ることができます。

今まで強いカバーに苦手意識を持たれていた方は、ボールレイアウトを見直し、是非この912Tを試してください。きっと今までのイメージを覆すリアクションを感じていただけるはずです。

特記事項

912Tはオイリーなコンディションで、ミッドエリアの安定感とバックエンドリアクションを兼ね備えたただオイルに強いだけのボールではないピンアクションも見逃せません。